

十五人の陶工

土岐の無形文化財



出品作家

【市指定】
中島正雄
加藤芳州
加藤 仁
塚本司郎
林 虎男
永江港史
水野澤三
酒井甲夫
塚本 満
林 恭助

【国指定】
塚本快示
鈴木 藏

展示解説

4/29(火・祝) 14時～

館外展示 土岐市美濃焼伝統産業会館 2025年2/1(土)～5/11(日)

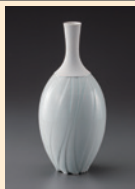
会場住所 土岐市泉町久尻 1429-8
電 話 (0572) 55-5527
開館時間 9:00～16:30(入館16:00まで)
休 館 日 3/31・4/7・14・21・28・5/7・8 ※入館無料

土岐市は、美濃焼はじまりの地、1400年続くやきものの町です。この長い歴史の中で育まれた様々な伝統技法は今もなお継承されています。それら伝統技法を受け継ぎ、再現するだけでなく、発展させて独自の作風にまで昇華させた優れた陶工たちは、国・県・市の無形文化財保持者に指定されてその技術と功績を顕彰されてきました。本展では、市制70周年を記念して土岐市ゆかりの15人の無形文化財保持者の作品を展示し、これからも受け継がれていくであろう陶芸の伝統と技、その美を紹介いたします。「伝統に学び、革新へと至る」、陶工たちが人生をかけた技と美をぜひ見に来てください。

2025年度 展示・イベントスケジュール

◆館外展示 会場：土岐市美濃焼伝統産業会館

7/19(土)～11/24(月・祝)
土岐市制70周年記念事業「現代茶陶展のあゆみ」(仮)
2026年 樽田裕史(つぼみ)2024 第16回現代茶陶展大賞
2/7(土)～6/7(日)
「美濃焼と土岐市の歴史文化をたどる」(仮)



土岐市制70周年記念事業「第17回現代茶陶展」
8/9(土)～8/17(日) 会場：セラトピア土岐 小ホール

◆子ども体験講座

「石をけずってみがいてまが玉をつくろう」 日時 8/2(土)
対 象 小中学生 ※小1～3は保護者同伴
定 員 各回20人 参加料400円(材料費)
会 場 土岐市立土岐津公民館 多目的室
申込期間 7/1(火)～7/15(火)
申込方法 メール ※1件につき応募は2名まで
メール記載事項
参加者氏名(全員)/学校名・学年(全員)/保護者氏名/電話番号(緊急連絡先)/希望の部(①/②)
日時 8/2(土)
①9:30～11:30
②13:30～15:30
講師 鍋内愛美(当館学芸員)
※応募者多数の場合は抽選
※7/19までにメールで全員に結果を通知。メールが受信できるように設定してください。期日までに返信がない場合は電話にてお問合せください。

◆学芸員と学ぶ講座 2025年度前半

第1回	博物館入門「学芸員が語る！博物館の現在、未来」 日時 5/17(土) 13:30～15:00 講師 春日美海(当館学芸員) 会場 土岐市文化プラザ3階 第5研修室 定員 40人
第2回	専門家に聴く「パレオパラドキシアの謎にせまる」 日時 6/7(土) 13:30～15:00 講師 安藤佑介氏(端浪市化石博物館学芸員) 会場 土岐市役所1階 多目的スペース 定員 40人
第3回	学芸員研究最前線 「箱館焼—幕末、美濃の窯元と商人は何を目論んだのか？」 日時 7/6(日) 13:30～15:00 講師 春日美海(当館学芸員) 会場 土岐市立駄知公民館 大ホール 定員 60人
第4回	学芸員研究最前線 「あの明智氏の館は妻木にあった!! —妻木平遺跡の発掘で明らかになった中世の妻木」 日時 9/13(土) 13:30～15:00 講師 中嶋茂(当館学芸員) 会場 土岐市立妻木公民館 大会議室 定員 40人



受講料無料/要事前申込/受付開始4/15(火) ※先着順
申込方法 電話 (0572)55-1245 またはメール
参加者氏名(全員分)/希望の回/代表電話番号/お住いの市町村名を記載
講座のメール申込はこちら(一般・子どもともに)

トキハクプロジェクト
の情報も
随時更新中!

美濃陶磁歴史館
WEB サイト



随時
更新中



土岐市文化財情報 美濃陶磁歴史館だより vol.18 2025年4月号

発行日/2025年3月31日

編集・発行/土岐市文化振興事業団(土岐市美濃陶磁歴史館)

〒509-5122 岐阜県土岐市土岐津町土岐口2121-1 土岐市文化プラザ3階

TEL:0572-55-1245 メール:toki_museum@toki-bunka.or.jp

土岐市文化振興事業団では、土岐市から美濃陶磁歴史館の運営と埋蔵文化財調査を受託しています。

土岐市美濃陶磁歴史館は、建て替えのため休館中です

美濃陶磁歴史館だより

展示や講座、発掘調査の成果、文化財関係事業のお知らせ

美濃陶磁歴史館は新博物館準備のため休館中です



織部焼の文様：幸と開

トキハク プロジェクト

NEWS

土岐市美濃陶磁歴史館(泉町久尻)が、新しい博物館へと生まれ変わるプロジェクトについて、2024年度の活動をお知らせします。

4月 トキハクワークショップを開催

前年度に引き続き、2024年度は5回(4/14、7/7、9/29、12/15、3/29)開催し、新博物館の市民活動について考えました。

7月 トキハクプロジェクトメンバー登録を開始

新博物館応援メンバーの登録を開始し、現在、登録者数は85人を越えました。登録方法は誌面下をご覧ください。

8月末 美濃陶磁歴史館解体に伴い、事務所移転

文化プラザ内で新博物館の設計や学芸業務を行っています。

9月 学芸員講座を開始

美濃焼や土岐市の歴史文化を学ぶ講座として、元屋敷窯や乙塚古墳をテーマに全5回開催、延197人の参加がありました。

10月 館外での企画展を開始

休館中、土岐市美濃焼伝統産業会館を会場に館外展示を行います。10/5～1/26に「ポスト織部の時代」を開催しました。

10/20 「清流の国ぎふ」文化祭2024

シンポジウム「美濃桃山陶、どう料理する?!」開催

山田五郎氏らパネリストをお迎えし、新博物館も見据えて、重要文化財「織部」の魅力と新たな活用について考えました。

11月 ブック＆サイエンスフェスに出展

土岐市役所を会場とした子ども向けのイベントで、新博物館事業の紹介や工作体験、「土岐市お宝クイズ」などを実施しました。

その他

美濃陶磁歴史館のホームページを改訂し、トキハクプロジェクトの情報も充実しました。窯跡の発掘調査、写真などの資料収集、収蔵品のデータベース公開(約5,300件公開)などを進めました。



▲山田五郎氏

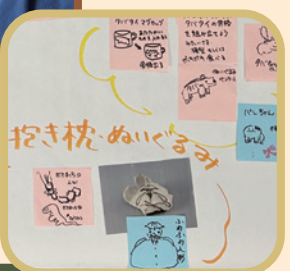
▲10/20 シンポジウム「美濃桃山陶、どう料理する?!」
出演：山田五郎氏(編集者・評論家)、高橋奈己氏(陶芸家)、
沼尻真一氏(陶芸家・茶道家)、伊藤嘉章氏(愛知県陶磁美術
館総長・町田市立博物館館長)、美濃陶磁歴史館学芸員



◀11/10 ブック＆サイエンスフェス
中学生などのボランティアのサポートにより、子どもたちがオリジナルキーホルダー作りを体験しました

12/15 ワorkshop ▶
ミュージアムグッズについて
楽しいアイデアが出ました

12/21 学芸員講座 ▼
「織部デザインに触れよう！」
美濃焼カルタや織部の陶片観察などを行いました



2025年度は?

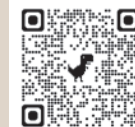
「学芸員と学ぶ講座」を土岐市内各所を移動しながら開催します。新博物館のこと、地域の歴史のこと…学芸員が語ります。

←詳細予定は裏面をご覧ください。

メールでも情報をお送りします→

トキハクプロジェクトメンバー登録フォームのご案内

登録
フォームは
こちらから



土岐市の新博物館を応援し、つながるためのメンバー登録フォームです。ご登録いただくと、新博物館や土岐市美濃陶磁歴史館に関わるイベント、ボランティア募集など最新情報をメールでお送りいたします。ぜひご登録ください。

TOKIHAKU PROJECT



土岐 思い出写真館

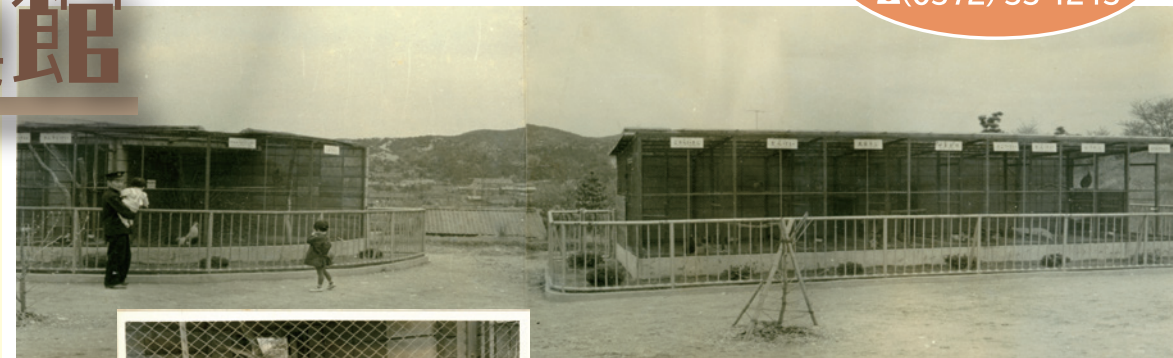
市民が写した町の記憶

市民に提供を呼びかけ、集まってきた写真の一部をご紹介します。現在、データ化を進めており、新博物館開館へ向けて展示やデジタルアーカイブにて一般に公開していきます。いまはなくなってしまった町並や地域の行事などを撮った懐かしい写真をお持ちの方は、ぜひご連絡ください。

ま
ち
の
に
ぎ
わ
い

石炭窯の煙突、下石町か▶

▲下石町にあった映画館
「シネマスコープ劇場」
昭和時代は、町々に劇場や
映画館がありました



▲下石小学校の野鳥園 昭和 38(1963) 年 撮影：杉浦磯雄氏



陶祖祭

陶祖祭の美濃焼廉売市（陶器祭り）▶
で賑わう駅前通り
提供：泉陶磁器工業協同組合



陶祖祭での土岐津中学校▶
ブラスバンド部の演奏
榎公園の美濃陶祖碑前にて
提供：泉陶磁器工業協同組合



▲下石町山神付近を通る東濃鉄道駄知線
現在の県道 66 号をまたぐように橋梁がかかっていました

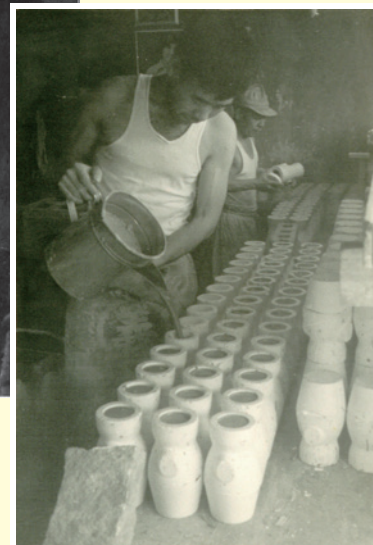
駄知線



▲駄知駅構内の稲荷神社前で写した一枚
餅投げが行われ、たくさんの人で賑わっています
撮影：杉浦磯雄氏



▲定林寺の登窯、窯焚き風景



▲昭和 30 年代、駄知から青森県の弘前へ進出して
店舗を構えたせとものや
駄知から輸送した美濃焼が販売されました
撮影：杉浦栄誠氏

◀ガバ鋳込による徳利製造
撮影：杉浦磯雄氏

活気づく陶磁器産業

市制 70 周年 その頃の土岐市

昭和 30（1955）年 2 月 1 日、泉町、駄知町、土岐津町、下石町、妻木町、肥田村、鶴里村、曾木村の 8 町村が合併し、土岐市が誕生しました。この時の土岐市広報には、9,680 戸、人口 50,127 人、市内陶磁器生産高 11 億円余という数字が記され「大陶都誕生」と湧き立ちました。翌月、市長として選任されたのは、合併協議をまとめ上げた県土岐地方事務所長 二宮安徳でした。以降、道路、河川、学校、病院など、市域のインフラの整備や陶磁器産業の振興とともに、国史跡を中心とした地域の文化財保護の動きが推し進められました。



国史跡「元屋敷窯跡」今昔
右：昭和 33（1958）年
史跡保護のための建屋を建設している様子



国史跡「乙塚古墳」今昔
右：昭和 34（1959）年
荒れ果てた古墳整備の要望
が地元から上がり、この 2
年前に整備が行われました



右から、二宮市長、人間国宝の陶芸家濱田庄司（益子より来土）と荒川豊蔵
二宮市長は、著名な文化人との交流により収集した美術品の一切を「文化不毛の地であってはならない」という言葉とともに土岐市へ寄贈、現在「二宮コレクション」として収蔵されています

